



図書だより5月号

2018年 5月発行
睦合中学校 学校図書館
学校司書 川瀬

皆さん、こんにちは！新年度が始まり1か月が経ちましたね。学校図書館も貸出が始まりました。毎月発行する「図書だより」では、おすすめの本や新着図書の紹介をしていきます。どうぞお楽しみに！学校司書は火・水・木・金曜日の昼休みにいますので、探している本が見つからない時や、何を読んだらいいかわからない時など、気軽に話しかけてくださいね。本を読むと知識が増えたり、想像力が豊かになります。本の中にはワクワク・ドキドキする世界が広がっています！学校図書館にはたくさん本があります。ぜひ、利用してくださいね。

今月の**展示テーマ**は「**朝読書なにを読む？**」です。朝読書におすすめの本を展示しています。ぜひ、本を借りに来てください。



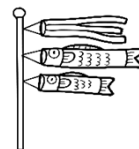
学校図書館の利用について



- <開館日> 月～金曜日の昼休み（※第2・第4月曜日は掃除のため、閉館）
- <貸出冊数> 2冊まで
- <貸出期間> 1週間
- <貸出できない本>

大型本・マンガや雑誌・禁帯出ラベルの本は貸出できません。
→図書館内で読んでください。

朝読&うちどく オススメの本



『王への手紙 上・下巻』 トンケ・ドラフト／岩波少年文庫（分類番号：949）

騎士になるための最後の試練の夜、16歳の見習い騎士ティウリは、見知らぬ男に重要な手紙を託される。思いがけない使命を与えられ、大山脈のかなたの隣国へと向かったティウリの行く手には、陰険なスパイやさまざまな陰謀が待っていた…。2004年秋に「オランダで過去50年間に出版されたこどもの本」の中から**第1位**に選ばれた児童文学の名作。



『昔話法廷』 NHK・Eテレ「昔話法廷」制作班／金の星社（新着図書，分類番号：913）

昔話をモチーフにしたNHK・Eテレの法廷ドラマ「昔話法廷」を書籍化。昔話の事件を裁判員裁判で裁くという設定で、「三匹のこぶた」「カチカチ山」「白雪姫」を題材にして、現代の法廷で審議する。あなたが裁判員ならどうする？裁判員制度を考えるきっかけに。





今こそ『朝の読書』を！
そして「うちどく(家読)」を！
～本をコミュニケーションツールに～



学校での『朝の読書』は、毎日10分間を読書のための時間として確保できる貴重な時間です。『朝の読書』は心の栄養になっているのです。この栄養を学校で蓄えることが、大きな意味を持ちます。語彙(ごい)が増え、話題が豊富になります。読んだ本については、語るができるため会話が苦にならなくなります。すると、コミュニケーション能力が培われます。学校という学びの場は、「生きる力」を育むための場です。学校での『朝の読書』は、子どもたちにとって、かけがえのない時間なのです。

『うちどく(家読)』とは「家庭読書」の略語で、「家族ふれあい読書」を意味します。この『うちどく(家読)』は、「朝読」(朝の読書の略)の家庭版として考えられたものです。家族で本を読んでコミュニケーションし、「家族の絆づくり」することを目的としています。

『うちどく』のやり方は、家族で本を読んでお話をすることです。これといった決まりはありません。同じ時間、同じ空間を家族で共有し、読んだ本についてお話していただければ、きっと楽しい時間となるでしょう。家族で楽しく本を読む方法を見つけてください。

『うちどく』に特別なルールはありません。家族みんなで好きな本を読んで、読んだ本について話す。これが基本です。

お互いに本をすすめあう、家族そろって本屋さんで本を選ぶなど、読む本について相談しあうことでもコミュニケーションが生まれます。



子どもたちが考えた 「うちどく(家読)」の約束

- ①家族で同じ本を読もう！
- ②読んだ本で話そう！
- ③感想ノートをつくろう！
- ④自分のペースで読もう！
- ⑤家庭文庫をつくろう！



「うちどく」は豊かな人間形成と、家族の絆を育む効果があると積極的に取り組む自治体も増えています。詳しい情報は、公式ホームページをご覧ください。「うちどくノート」や「うちどくブックガイド」が無料でダウンロードできます。「トーハン うちどく」で検索するとアクセスできます。

引用…「YA朝の読書ブックガイド2018」より

<https://www.tohan.jp/csr/uchidoku/index.html>